

☆野幌小学校の概要☆

1. 野幌小学校の創設

明治23(1890)年、この地域は、北越殖民社を母体とする新潟県民によって開拓された。翌明治24年9月5日、地域住民の熱望により瑞雲寺内の寺子屋式教育場が開設された。これが本校の前身である。

明治29(1896)年、開墾の鍬が打ち下ろされてから6年目、地域住民がそれまで積み立ててきた積立金の拠出と殖民社からの寄付金により、間口4間・奥行11間・二階建ての校舎が完成し、「野幌尋常小学校」が創設された。

2. 校名(地名)

野幌の地名・川名については諸説があるが「ヌポロベツ→ヌプ・オル・オ・ベツ」野中の川の意と書かれた「北海道駅名の起源(日本国有鉄道/昭和29年度版)」のものが適当であると解説している。

(「北海道の地名」山田秀三氏著・北海道新聞社)

3. 校歌

昭和24(1949)年10月15日、第53回開校記念日を期して校歌が制定された。当日は、児童父母が多数参会して発表会が開かれた。

(作詞・松本達雄氏、作曲・加藤愼三氏)

4. 校章

昭和28(1953)年4月29日、新たに制定される。外廓を雪の結晶と原始林をもって表現し内廓は平和な環境を円で表し、中心を小としてある。

5. 校旗

昭和63(1988)年10月、PTA活動によって地域内の方々の寄付を仰ぎ作成した。(価格309,600円、札幌山札商会納入)

先代の校旗については、その有無を含めて不明である。昭和11年、昭和天皇が林業試験場に行幸された際に奉拝の栄に浴したが、その折持っていたという古老の思い出があるが定かではない。

野幌小学校は今年で

開校127周年を迎えます。

☆学校教育目標☆

こころやさしく けんこうな子
みずからかんがえ やりぬく子

☆学校経営の重点☆

たくましく 未来を拓け 野小っ子
～かしこく やさしく 元気よく～

☆学校経営の基本方針☆

歴史と伝統、自然豊かな環境を大切にした江別市小規模特認校として、本校の学校経営基盤を次のようにおさえる。

○小規模特認校としての特性を生かし、きめ細かな学習・生活指導の徹底を図る。

○地域の自然・特色を生かすとともに体力の向上を目指した教育活動を推進する。

○特認校として開かれた信頼される学校づくりを推進する。

上記3つの基盤のもと、相互信頼と協働により全教職員で全児童を指導し、創意と活力に満ちた学校経営を推進する。それにより、児童一人一人のよさや可能性を引き出し、「自立」と「自律」による自己実現に向けて努力する児童の育成を図る。

1 生きる力を育む、魅力と創意工夫に満ちた教育課程を編成・実施する。

2 指導力の向上を図る実践的な研修の充実を図る。

3 保護者・地域とともに子どもを育てる学校環境づくりを実施する。

4 特別支援教育の趣旨を踏まえ、個の自己実現を図る教育活動を推進する。

5 小中一貫教育開始に向けた中学校区での連携を図る。

6 教職員の働き方改革を目指した業務改善と発信に努める。